

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

ワーキンググループを活用した小中連携の取組

(白老町立白老中学校)
(白老町立社台小学校・白老小学校・緑丘小学校)

効果的な取組とするためのポイント

中1ギャップへの不安を解消するためには、児童が抱えている中学校での学習・生活の不安の軽減に努め、小・中学校の円滑な連携を進めることが大切である。白老中学校区では小・中学校による授業交流や中学校教諭による小学校への出前授業の実施し、円滑な連携を図った。

取組の実際

1 学力向上ワーキンググループにおける小中連携

校区内の小・中学校が相互に連携し、義務教育9年間におけるスムーズな学習の移行を図ることで、児童生徒の学習習慣及び学習規律の定着を促し、連続性のある豊かな学びの環境を整えることとした。

(1) 学習規律について

各学校で指導してきた学習規律を基に、小学校高学年と中学校との連続性の調整を図り、中学校区としての学習規律のアウトラインを設定した。

(2) 家庭学習の在り方について

各学校で指導してきた家庭学習の取組と児童生徒の実態、それぞれで作成してきた「家庭学習の手引き」を交流し、中学校区として家庭学習の在り方のアウトラインの設定し、校区のワーキンググループがパンフレットを作成した。

2 小・中学校による授業交流

授業交流を通して、小中連携の視点から授業改善を図ることを目的に実施した。

白老中学校の教諭が各小学校の授業を参観し、各小学校の教諭が白老中学校の授業を参観し、授業参観後には授業に関する研究協議や生徒指導交流会を行い、児童生徒の学習・生活の様子について交流した。

3 中学校教諭による出前授業の実施

中学校の教諭が小学校に赴き、授業を行うことで中1ギャップ問題の改善を図った。実施時期は11～12月に算数、1月に英語・理科で、授業内容は小・中学校の教諭の打合せで決定した。1月の英語・理科は冬季休業中に小学校との打合せで児童の実態に合わせた教科として実施した。



成果(○)と課題(●)

- 中学校区としての学習規律、家庭学習の在り方のアウトラインとして
 - ・小学校3校の学習規律を基に、「白老中学校区3校共通の学習規律」を作成
 - ・共通の学習規律をベースとした「白老中学校の学習規律」を作成
 - ・保護者・教師向けの家庭学習充実のためのパンフレットを作成することができた。
- 事業計画を推進していく中で、拠点校と連携校の間で実施日程の調整や組織的な取組を推進するための体制の整備など、連携の進め方について随時、見直し・改善を図る必要がある。

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

小・中学校間での学習規律、生活規律の改善に関する一貫した取組の推進

(枝幸町立枝幸南中学校)

効果的な取組とするためのポイント

「中1ギャップ」の未然防止と学力の向上に向け、児童生徒の学習に取り組む姿勢について、小・中学校で共通した指導方法の必要性について中学校から発信を行った。

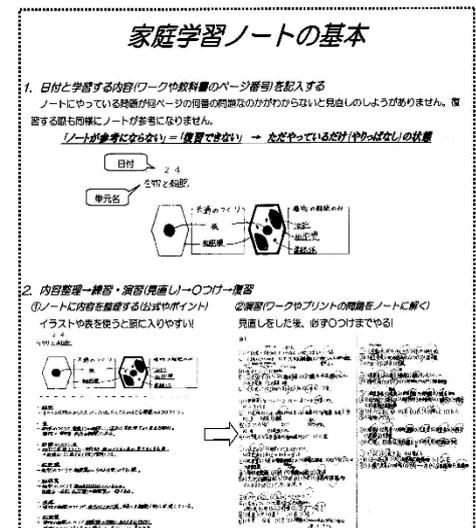
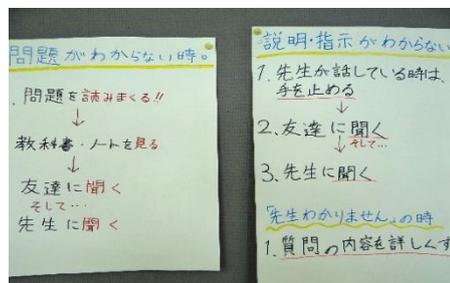
取組の実際

○ 学習規律の共通化の取組

- ・「中1ギャップ」の解消を図るためには、小・中学校間のきめ細かな連携が不可欠である。校区には4つの小学校があり、ほぼ全ての児童が本校に入学する。
- ・小学校ごとに、各学校の実態に応じて、学習や生活の約束が設定されている。しかし、小・中9年間を見通したものが無いことから、入学後の学習や生活に対して、不安感をもたせたり、新たな対応が求められたりすることがあった。そこで、基本的な学習や生活の約束を4校の小学校と中学校で共通化を図って取り組むことが、児童生徒の不安感を減らし、「中1ギャップ問題」の未然防止に有効であると考え、今年度は、特に学習規律の共通化について取り組んだ。
- ・これまでの学力向上の取組とともに、以下の3点について、全生徒、全教職員で取組内容を確認した。

- ① 学習規律について、全教師が共通して指導できるよう教室内に掲示する。
- ② 板書の特に重要な部分は色を使ったり、囲ったりするなどして共通化する。併せてノート指導も行い、学級担任、教科担任が各教科・領域で共通して指導できるようにする。
- ③ 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の仕方について手引きを作成し、配布する。

- ・小学校に対しては、交流会で取組内容について協議し、共通理解と小学校での実施を求めた。次年度は、学習規律等の定着に向けた取組について、検討する。



成果(○)と課題(●)

- 中学校進学時の学習に対する不安感を解消するとともに、学力向上にもつながった。
- 児童が、中学校での学校生活に慣れるためには、小・中学校間の話合いや情報交流を通して、学習面・生活面での円滑な接続を図る取組が不可欠である。

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

学習規律・生活規律の共通化と引継ぎの工夫

(網走市立西小学校・中央小学校)
(網走市立第二中学校)

効果的な取組とするためのポイント

- 児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにするために、小・中学校間で学習規律や生活規律について共通した指導項目を設定している。また、児童一人一人の特徴が分かるよう引継ぎの内容を工夫し、中学校における指導の充実につなげている。

取組の実際

1 学習規律、生活規律に関する取組

- ・各小・中学校においては、学習規律や生活規律に関して、「学習の基本事項」【西小】、「話す聞くルール」【中央小】、「学習の心得」【二中】を設定して指導している。
- ・これまで、3校の学習規律は各学校が独自で設定していたことから、小学校から中学校へと生活環境が変わっても、児童生徒が安心して学習や生活に取り組んでいくことができるよう、小・中学校が共通して指導する項目を設定し、指導することとした。
- ・3校で協議した結果、今年度は以下の点を、全学年を通して共通して指導することとした。

- 1) 他人の話を最後まで聞く。
- 2) チャイムで着席し、学習準備をする。
- 3) 忘れ物をしない。

2 児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善

- ・昨年度、一方の小学校の教員が引継ぎシートを活用した。今年度は両小学校が同一の様式の引継ぎシートに特記事項を記載した上で引継ぎを行った。
- ・両小学校が実施した「Q-U」「ほっと」の結果を中学校に引継ぎを行い、中学校での指導に活用した。

学習の心得

- チャイムで着席し、学習を始めよう。
- 起立 礼 着席をしっかりしよう。
- 授業に集中し おしゃべりはやめよう。
- 話や発表に対してはしっかり反応
(返事・頷き) しよう。
- 他人の話を良く聞き 考え 深めよう。
- 大きな声ではっきり発表しよう。
- しっかりメモを取り 忘れ物をなくそう。

(第二中学校)

引き継ぎシート(中央小)

| （ふりがな） | | NO.1 | |
|-----------|-----------------|------|---|
| 児童氏名 | | 男・女 | |
| 生年月日 | 年 月 日 生 | | |
| 学級の状況 | | | |
| 健康に関する状況 | | | |
| 生活・行動態の様子 | | | |
| 性格（リーダー性） | | | |
| 運動能力 | | | |
| 家庭環境 | | | |
| 出席状況 | 第4学年 | 第5学年 | 計 |
| | 欠席 | | ○ |
| | 遅刻 | | ○ |
| | 早退 | | ○ |
| その他 | 別室習字 | | ○ |
| その他備考に記入 | トランプ、卓球部、PTA役員等 | | |

| 共通指導事項 | |
|---------|--|
| 学習の準備 | ・椅子を動かさず、机の上に入らぬように置く。 ・学習用品を机の上に出し、準備する。 ・自習をして静かに待つ。 |
| 聞き方 | ・話し手の話を最後まで、静かに聞く。 ・声に合わせた返答、内容を考えながら聞く。 ・私語や手癖をしないで聞く。 ・疑問や疑問、聞き返しは、話が終わってからにする。 |
| 話し方 | ・返事ははっきりとする。 ・長い話し方や言葉遣いについて、最後まではっきり話す。 ・高い声で話さない。 ・考えをまとめて話すようにする。 |
| 発言態度の仕方 | ・「これから〇〇の学習を始めます」 ・「～です」「～です」 ・「はい」「いいえ」「同じです」「似ています」 ・「いいえ」「お話しします」「ほかにもあります」 ・「よくわかりませんが」「もう一度説明してください」 ・「～につけたします」「私は～だと思っています」 ・「これで〇〇の学習を終わります」 |
| 備考 | ・子どもたちと約束を決めて、繰り返し指導し定着を図る。 ・家庭訪問や学習・学年の把握を考慮し、上記の無いように付加、または削除し指導する。 ・学期末に定章の様子について評価を行う。 |

(西小学校)

成果(○)と課題(●)

- 小・中学校共通の指導項目の設定や、引継ぎのための資料の統一化を図ることができた。
- 学習規律や生活規律に関する共通の指導項目については、今後、日常の授業でどのように具体的な形で指導していくのか、そして指導によりどのような成果があるのかを検証する必要がある。

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

小・中学校相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の充実
(江差町立江差北小学校・江差北中学校)

効果的な取組とするためのポイント

小学校外国語活動と中学校数学科における相互の乗り入れ授業では、時間割、日課表の運用などを工夫するとともに、指導体制の整備により充実を図っている。また、授業交流会は、児童生徒の実態把握と、学力を高める学び方の工夫を観点に実施している。

取組の実際

1 乗り入れ授業

今年度は、年間3回の乗り入れ授業を実施した。小学校では第5・6学

年の外国語活動の授業において中学校の外国語科の教員がゲストティーチャーとして、中学校では第1学年の数学科の授業において小学校高学年の教員がT2として乗り入れている。担当者で事前の打合せや指導案の検討を綿密に行い、指導の工夫と改善を行っている。

| | |
|-----------|------------------|
| 7月19日(金) | 小学校6年、中学校1年乗り入れ |
| 9月11日(水) | 授業交流会(中学校全学年) |
| 9月17日(火) | 小学校5年、中学校1年乗り入れ |
| 11月26日(火) | 小学校6年、中学校1年乗り入れ |
| 12月11日(水) | 授業交流会(小学校2・4・6年) |

2 授業交流会

小・中学校各1回の授業公開を行い、児童生徒の様子や実態の交流を行っている。特に今年度は、授業参観の視点を「学力を高める学び方の工夫」とし、その観点に沿って授業後の話し合いが行われた。



3 児童生徒の感想から

- 外国語は本当におもしろいと思った。(小学校5年生)
- 今日学んだ事を使って、来年の4月から中学校でがんばっていききたい。(小学校6年生)
- 小学校の先生の説明で、平行移動、対称移動、回転移動がよく分かったので、普段の授業でも生かしていきたいです。(中学校1年生)

成果(○)と課題(●)

- 小学校外国語活動では、実際に中学校教員の指導を受けることにより、中学校の学習に対する不安感を払拭することができた。
- 中学校数学では、高学年の担任であった小学校教員が復習の場面で指導することにより、既習内容の振り返りを効果的に行うことができた。
- 小学校外国語活動では、児童の英語に対する苦手意識を軽減させる授業の工夫、中学校数学では、展開の段階における効果的な小学校教員の活用方法の検討が必要である。

2 学習指導や生活指導の 小・中学校の円滑な接続に よる工夫改善

9年間の学習環境整備の取組

(別海町立別海中央小学校)
(別海町立別海中央中学校)

効果的な取組とするためのポイント

安心して学べる学習環境を9年間にわたりスムーズにつなげていくため、小学校と中学校で学習規律を統一し、児童生徒の9年間の学習の基盤を整備した。また、年間を通じて中学校から数学科担当教員3名、英語科担当教員2名を小学校へ派遣し、児童の学びをサポートした。

取組の実際

1 学習規律の共通化を図り、学びの基礎を築く

不登校の原因として、入学時の急激な環境の変化が考えられるため、校種間の円滑な接続に向けた取組が必要となる。そこで、それぞれの学校の教職員の共通理解を促すため、児童生徒の「学習規律の共通化」を図った。小・中・高等学校の全教員が中学校の授業を参観し、12年間の連続した学びをテーマに、学習規律について児童生徒の様子を比較し、気になる点について協議を行った。このことにより、連続した学びの基礎となる学習規律を明確にすることができた。現在、小中学校間では、児童生徒の発達の段階にあわせた学習規律の統一を行い、学習や生活面の変化を感じさせない円滑な接続が行われ、児童生徒にとって学びやすい環境を整えることができた。



中央中学習五原則

- 1 学習準備は、前の授業の終わりに
- 2 チャイムは授業の始まり
- 3 私語は慎む
- 4 話は目と耳で聞く
- 5 作業は素早く



【小中高一貫教育交流会の様子】

2 数学・英語教員チームを派遣し、学習の連続性を図る

授業では、学習面における円滑な接続のため、数学科担当教員3名、英語科担当教員2名を小学校へ派遣し、T2として授業をサポートしている。数学科担当教員は、4年生以上の算数の授業に入り、「学習規律の徹底」「個々の児童の習熟度の把握」「算数の指導の改善」に重点をおいて指導している。英語科担当教員は、6学年の外国語活動のサポートに入り、児童の実態把握や興味関心を生かした指導方法の工夫改善を行っている。これにより、中学校までの発達の段階を踏まえた細やかな指導ができ、児童の学力向上の兆しが見られ、児童理解を深めることができた。今年度は、昨年6年生のT2を担当していた教員を1学年担任とし、不登校の未然防止を重点に学習指導、学級・学年経営を行うことができた。

成果(○)と課題(●)

- 児童一人一人の課題を中学校教員が明確に把握することで、中学校入学後、学習面や生活面においてよりきめ細やかな指導ができ、不登校等を未然に防ぐことにつながっている。今年度の不登校の生徒の割合は前年度の3分の1に減少した。
- 児童生徒の発達を考えたとき、幼児期の学びや生活習慣と密接な関係があることから、保育園・幼稚園との連携を図った取組を推進していく必要がある。

2 学習指導や生活指導の 小・中学校の円滑な接続によ る工夫改善

小・中学校相互の授業参観や出前授業等、
小・中学校が連携した指導方法・指導体制
の充実の取組

(長万部町立長万部中学校)

効果的な取組とするためのポイント

生活指導に加えて学習指導においても、小・中学校の9年間を見通した教育活動が必要である。小学校と中学校が、児童生徒の教科等の学習状況を把握するとともに、自校の教科等の指導の改善を図る取組を推進する協力体制を構築した。

取組の実際

1 長万部町教育研究所を活用した交流

町内の全小・中学校の教員が学習指導や生徒指導などのサークルに分かれ、研究を深めている。また、公開授業研究会において各校の授業実践に関する交流を行うことで、学力面での小・中学校間のギャップの解消に向けた授業実践の在り方についての検討を行った。



【中学校1年 理科の授業】



【事後研の様子】

小・中学校の教員による事後研では、小・中学校間の学習の接続に向け、様々な視点から授業改善に向けた意見が出され、有意義な検討が行われた。

2 長期休業中の学習会における教員の派遣

夏季休業日及び冬季休業日に各小・中学校が行っている学習サポートにおいて、それぞれの日程に合わせて小学校から中学校へ、また、中学校から小学校へ教員を派遣し、児童生徒へのサポートを行っている。小・学校が連携した学力向上の取組の推進により、児童生徒の実態把握を深めた。

3 小学校6年生の学校説明会・体験授業の実施

学校説明会では、中学校の生徒会が学校生活の紹介や見学会において小学校6年生に記入してもらった中学校生活への疑問に対する回答を行った。体験授業では、実際に中学校の教員による授業に触れることで、改めて学習への意欲をもち、中学校入学後の学習・生活に向けた心がまえをもつきっかけとなった。



【小学校6年生 体験授業】

成果(○)と課題(●)

- 公開授業の事後研では、小・中学校の教員がそれぞれ意見を出し合い、学習の系統性や小・中で共通して取り組むべき課題について確認することができた。
- 例年行われている中学校の見学会や説明会の実施時期、内容を改善することで、児童の中学校のイメージを明確にするとともに、中学校生活への意欲付けや不安解消への相乗効果がみられた。
- 教員間の交流については、さらにその機会を増やすとともに、それぞれの取組に対する理解を深め、自校の取組の改善につなげていくことが必要である。

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

小・中学校相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の充実
(陸別町立陸別小学校・陸別中学校)

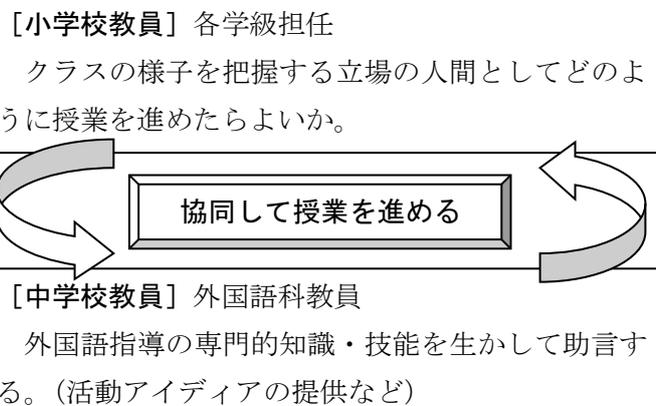
効果的な取組とするためのポイント

陸別町の小・中学校では、外国語教育における小学校から中学校への円滑な接続を目指して、小学校の授業に、中学校教員がサポートできる体制を構築し、年間35単位時間の単元指導計画を作成、実践している。

取組の実際

- ・外国語（英語）を母国語とする人が話す英語に触れる機会が少ない児童に対し、専門的知識・技能を有する中学校教員が指導することは有効であると考え、サポートシステムを構築した。
- ・このことにより、中学校外国語教員が、小学校教員と協同して指導計画を作成することとなり、系統性のある外国語活動を行うことができるようになった。
- ・小・中学校の教員が、協力し合って授業を展開することで、教員個々の専門性を発揮し、児童の確かな学力を定着させるとともに、中学校においては、児童生徒理解に基づく、入学後の指導が可能となった。
- ・さらに、児童にとっては、中学校入学後に、同じ先生から習うことができるため、人間関係の円滑な接続が可能になり、いわゆる「中1ギャップ」の未然防止にもつながっている。

【小学校外国語活動にかかわる 中学校教員のサポートシステム】



| 過程 | ○主な学習活動（時間） | ◇教師の主な動きかけ | | ■評価規準（評価方法） ●：B基準を満たしている生徒への対応 ▲：B基準を満たしていない生徒へ対応 |
|---|-----------------|---------------------------------|-----------------|---|
| | | T1 | T2 | |
| 導入（9分） | ○Warm Up（1分） | 英語であいさつをする。 目付確認 | | 【1】意欲的に英文を読んでいるか（観察） ▲ 発音を確認させ自信をもって読めるようにする。 ● スムーズに拘揚を付けるように促す。 |
| | ○学習のフィードバック（8分） | ミキの発表文を読む (チャンク→日本語から英語→文ごと) | 机間巡視（読めない生徒の支援） | |
| 【研究①】 英語を表現することに抵抗感や不安を解消し自信を持たすために、全体での発表文の提示→個人で考える時間→グループでの助け合い→発表への準備と段階を踏む。 | | | | |
| グループで日本の旅の提案を発表する準備をしよう | | | | |



成果(○)と課題(●)

- 小学校外国語活動にかかわるサポートシステムにおいて、小・中学校の教員が連携した授業づくりを行うことにより、学習内容や学習方法の幅が広がり、より児童の実態に応じた学習指導を行うことができた。
- 小・中学校がそれぞれ取り組んでいる校内研究において、学習面だけでなく、生活面においても、互いの課題を共有し、系統的な指導を確立する必要がある。

2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

小・中学校間での児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善の取組

(東神楽町立東神楽中学校)

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校間の情報交流を進め、円滑な引継ぎを実施するため、町内の児童の学力の状況やコミュニケーションに関わる実態、生徒指導上の諸問題に関する実態や対応の状況などについて、様々な機会を活用して、教員が客観的な資料をもとに交流する機会の拡充を図っている。

取組の実際

1 東神楽町「中1ギャップ検討委員会」の活動の工夫

(1) 検討委員会の目的

東神楽町の教員が所属する東神楽町教育研究会、生徒指導連携協議会の活動と連携を図り、学習指導や生徒指導に関わる基本的な取組を町内の小・中学校で統一し、中学校に入学する児童が中学校生活に不適應を起こさないようにする取組を推進する。

(2) 活動の内容

- ① 学習指導において、学習規律の定着や家庭学習の充実を図る取組について、東神楽町教育研究会と連携を図り、東神楽町教育研究大会の公開授業において具体的な事例を提供し、町内の全ての教員が実践内容について確認する機会を設定した。
- ② 東神楽町教育研究会と共催で、東京大学から講師を招き、児童生徒の学習における表現力の育成やコミュニケーション能力の育成を目指す研修会を実施した。
- ③ 生徒指導上の諸問題を解決する取組として、生徒指導連携協議会と連携を図り、前年度に発行した「校外生活のきまり」の見直しや検討を行った。また、校内生活のきまりなどについて情報交換を行い、協力体制を整え実践を進めた。平成26年4月に東神楽中学校に進学する町内の第6学年児童向けに、「春休みの過ごし方」パンフレットの作成、配付を検討している。

2 小学校との連携、引継ぎ等の工夫

(1) 小学校との連携

中学校から教務・生徒指導担当者が小学校に出向き、中学校説明会を開催している。また、特別な支援を必要とする児童の引継ぎについては、保護者を交えたケース会議を行っている。

(2) 小学校と中学校との引継ぎ

中学校教員が3月下旬に小学校4校を訪問し実施している。中1ギャップ問題未然防止事業に全町一体となって取り組んだことにより、小学校では学力に関する資料、生徒指導に関わる資料、子ども理解支援ツール「ほっと」の結果や人間関係等に関する資料にポイントを絞って引継ぎが実施できるようになっている。町内の全ての小・中学校で「ほっと」を活用しているため、項目や指導内容について、共通認識のもとで情報交換を行うことができている。

成果(○)と課題(●)

- 小・中学校の教員による子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した研修等で子どもの実態を踏まえた情報交換が積極的に進み、個や学級の状態について、適切に引継ぎを行うことができた。
- 引継ぎ内容と方法の改善に伴い、入学後の指導の手立てを有効なものにすることができたが、その後の状況について、保護者や関係機関との連携を含めて継続的に情報交換を行う必要がある。